



LEONARD BERNSTEIN

Vienna Philharmonic

BERNSTEIN ON BEETHOVEN
A CELEBRATION IN VIENNA



DREAMLIFE

DVD
VIDEO

Leonard Bernstein®



①オープニング OPENING

- ②ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第1番 ハ長調 作品15（抜粹）
Beethoven : Piano Concert No.1 in C major Op.15 (Excerpts)

ベートーヴェン：交響曲 第9番 ニ短調「合唱付」作品125（抜粹）
Beethoven : Symphonie No.9 in D minor "Choral" Op.125 (Excerpts)

- ③ベートーヴェン：歌劇「フィデリオ」（リハーサル風景と抜粹）
Beethoven : "Fidelio" (Rehearsal & Excerpts)

- ④ベートーヴェン：交響曲 第9番 ニ短調「合唱付」作品125より“歓喜の歌”
Beethoven : "Ode to Joy" from Symphonie No.9 in D minor "Choral" Op.125

ウイーン・フィルハーモニー管弦楽団 Vienna Philharmonic

指揮、演奏、台本、ナレーション：Conducted, performed, written and narrated
レナード・バーンスタイン by Leonard Bernstein

収録 1970年 Recorded : 1970

③with: ギネス・ジョーンズ〈レオノーレ〉

Gwyneth Jones <Leonore>
ジェイムズ・キング〈フロレスタン〉
James King <Florestan>

テオ・アダム〈ドン＝ピツアロ〉
Theo Adam <Don Pizarro>

ルチア・ポップ〈マルツェリーナ〉
Lucia Popp <Marzellina>

アドルフ・ダラポッタ〈ヤキーノ〉
Adolf Dallapozza <Jaquino>

カール・リーダーブッシュ〈ドン＝フェルナンド〉
Karl Ridderbusch <Don Fernando>

④with: ギネス・ジョーンズ

Gwyneth Jones
シャーリー・ヴァーレット
Shirley Verrett

プラシド・ドミンゴ
Plácido Domingo

マルティ・タルヴェラ
Martti Talvela

ウィーン国立歌劇場合唱団
Vienna State Opera Chorus

ベートーヴェン生誕200年祭のバーンスタイン

山崎浩太郎

このDVDは、ベートーヴェン生誕200年の1970年に、バーンスタインが
ウィーンで指揮した3種のベートーヴェン公演のドキュメントである。

その3種とは（正確な日付は付記されていないので、推定も含む）、

4月 4日 コンツェルトハウス大ホールでの、ウィーン・フィルなどを指揮しての
交響曲第9番。

5月 24日 この日を初日としてアン・デア・ウイーン劇場で行なわれた、
国立歌劇場の一一座による《フィデリオ》。

6月 7日 ウィーン楽友協会大ホールでの、ウィーン・フィルを指揮し、
独奏も兼ねたピアノ協奏曲第1番。

番組では構成の都合で、この3種が時間をさかのぼる形で、つまりピアノ協
奏曲第1番に始まって《フィデリオ》が続き、交響曲第9番で締められている。

このうちピアノ協奏曲と交響曲については、全曲がすでにドリームライフか
ら発売されている。だから貴重なのは、ウィーン祝祭週間における《フィデリ
オ》のリハーサルと本番の模様ということになる（本番も全曲が録画され、た

びたびテレビ放映されているが、権利関係の問題でもあるのか、DVD や LD、VHS などで商品化されたことはない)。

このときは計 6 回の公演のうち、初めの 3 回がこのオペラの初演会場でもある、アン・デア・ウィーン劇場での公演というのが話題となった。

この劇場は 1801 年開場、ウィーンに現存する最古の劇場であり、しかも現役である。建主が《魔笛》の台本作者として有名なシカネーダーだったというのも、その由緒に彩りを添えている。

《フィデリオ》の原型である《レオノーレ》がこの劇場で初演されたのは 1805 年のことだった。よく知られているように当時のウィーンはナポレオンのフランス軍に占領されており、その兵士たちの野次で初演は失敗だったという(リハーサルでバーンスタインがピツアロ役を「ナポレオンのような弱さを持った、小さな独裁者」と言っているのは、この歴史を踏まえてのことだろう)。

現在上演される《フィデリオ》はこの作品の第 3 版にあたり、1814 年に同じウィーンのケルントナートーア劇場で初演されている。しかしアン・デア・ウィーン劇場はその後も J・シュトラウスの《こうもり》(1874 年) やレハールの《メリー・ウイドウ》(1905 年) という、オペレッタの二大名作を初演するなど、ウィーン音楽史に輝かしい足跡を印してきたのである。

番組ではそのアン・デア・ウィーン劇場やウィーン国立歌劇場、コンツェルトハウスなどおなじみの建物や、ベートーヴェンのたくさんの旧居などが次々と紹介される。

正直なところ、《フィデリオ》はリハーサルの模様を見るにつけ、もっと本番

を観たい、聴きたいと欲求不満が募る感もあるが、それはいつかのお楽しみ、というところか。

出演者たち

《フィデリオ》

●ギネス・ジョーンズ（レオノーレ、交響曲第9番のソプラノ）

1936年11月7日、イギリスのウェールズ南部、ポントネワニックスに生まれる。名前は「グウィネス」などとした方が実際の発音に近いようだが、ここでは慣用表記に従う。ロンドンなどで学び、1962年にチューリヒでデビューした直後まではメゾソプラノだったが、翌年ソプラノに転向。以後、ドラマティック・ソプラノとして各地に活躍し、バイロイト音楽祭でもブーレーズ指揮による《ニーベルングの指輪》のブリュンヒルデなどを歌っている。

●ルチア・ポップ（マルツェリーナ）

1939年11月12日、スロヴァキアのブラティスラヴァ近郊に生まれたソプラノ歌手。1963年にブラティスラヴァで《魔笛》による女王役でデビュー。それから間もなくウィーン国立歌劇場やバイエルン国立歌劇場、ザルツブルク音楽祭などの常連となる。リリカルな娘役を得意とした。1993年10月16日、ウィーンで没。

●ジェームズ・キング（フロleston）

1925年5月22日、アメリカのカンサス州ドッジ・シティに生れたテノール歌手。ルイジアナ州立大学などで学ぶ。初めバリトンだったがテノールに転じ、1961年にサンフランシスコで《ばらの騎士》の歌手役でデビュー。その後すぐに貴重なヘルデン・テノールとして、ウィーン国立歌劇場やバイロイト音楽祭など、ドイツ語圏で大活躍。ワーグナーの諸役を得意とした。2005年11月20日フロリダにて没。

●テオ・アダム（ドン・ピツアロ）

1926年8月1日、ドイツのドレスデンに生まれたバス・バリトン歌手。ワイマールで学ぶ。1949年、ドレスデン国立歌劇場でデビュー。1952年にバイロイト音楽祭にデビューし、常連となる。1960年代にはヴォータン役の第一人者として活躍した。1990年代まで現役だった。

●フランツ・クラス（ロッコ）

1928年2月9日、ベルギーのヴィッパーフェルトに生まれたバス・バリトン歌手。ケルンで学び、1954年にクレーフェルト市立歌劇場でデビュー。1959年にバイロイト音楽祭にデビュー。1964年からはハンブルク国立歌劇場の所属となつたが、ウィーン国立歌劇場など、ドイツ語圏各地の歌劇場にも客演した。

《交響曲第9番》

●シャーリー・ヴァーレット（メゾソプラノ）

1931年5月31日、ニューオリンズに生まれる。カリフォルニアで育ち、1957年にイエロースプリングスでデビュー。1959年から西ドイツのケルン歌劇場に所属し、60年代はヨーロッパを拠点として活動。1966年ミラノ・スカラ座に『カルメン』外題役でデビューする。70年代半ばからはドラマティック・ソプラノの役柄にも挑戦し、1974年スカラ座での『マクベス』のマクベス夫人役で大成功した。

●プラシド・ドミンゴ（テノール）

1941年1月21日、マドリードに生まれる。サルスエラ（スペイン独特の歌劇）の歌手だった両親に連れられ、幼時にメキシコへ移る。1957年バリトンとしてデビューしたのち、テノールに転向して1961年に再デビュー。1960年代後半に声望を高め、1970年前後にはメトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、コヴェント・ガーデン歌劇場などで主役級歌手として人気を得る。当時はイタリア・オペラが中心だったが、その後ドイツ・オペラや指揮の分野にも進出して、幅広く活躍している。

●マルッティ・タルヴェラ（バス）

1935年2月4日、フィンランドのヒイトラに生まれる。母国とスウェーデン

で学び、1961年にストックホルムでデビュー。深く強大な声のバス歌手として、バイロイト音楽祭のほか、欧米各地の歌劇場で活躍した。1989年7月22日、母国で死去。

●オットー・シェンク（《フィデリオ》演出）

1930年6月12日ウィーンに生まれた演出家・俳優。俳優から演出家に転じ、1957年にザルツブルクの州立劇場（ランデステアター）での『魔笛』が初のオペラ演出。その後ウィーンでも活躍するようになり、1965年にウィーン国立歌劇場の首席演出家となる。視覚的にはオーソドックスだが、演劇的に練り込まれた演出得意とする。自分がフロッシュ役として出演することもある『こうもり』や『ばらの騎士』などが代表作。メトロポリタン歌劇場での、ワーグナーのト書きに忠実な『ニーベルングの指環』もよく知られている。

●レナード・バーンスタイン

1918年8月25日、アメリカのマサチューセッツ州、ローレンスに生まれる。ハーヴارد大学などで学んだのち、1943年8月にニューヨーク・フィルの副指揮者に採用される。3か月後の同年11月、急病のブルーノ・ワルターの代役として、ニューヨーク・フィルの定期演奏会を指揮して大成功、センセーショナルなデビューを飾る。翌年には自作の交響曲第1番『エレミア』を初演した。クラシックとミュージカルの二つの分野における作曲家、指揮者、さらにテレビなどでの講演など、多方面に才能を発揮する才人として有名になる。1957年、

ミュージカル『ウエストサイド物語』を作曲して大ヒット、4年後に映画化されたこの作品はブロードウェイ・ミュージカル史上の金字塔となる。同じ1957年にニューヨーク・フィルの首席指揮者となり、翌年から音楽監督に就任して1969年までつとめたのち、桂冠指揮者の称号を贈られる。1970年代以降はワインなどヨーロッパ各地のオーケストラとの演奏機会を多くもって、好評を博した。1961年以降1990年までたびたび来日している。1990年10月14日、ニューヨークで死去。

- DVDビデオは、映像と音声を高密度に記録したディスクです。DVDビデオ対応プレーヤーで再生してください。
- 詳しくは、ご使用になるプレーヤーの取扱説明書をご参照ください。

【取扱い上の注意】

- ディスクは両面共に、指紋、汚れ、傷等をつけないように取り扱ってください。
- ディスクが汚れたときは、メガネふきのような柔らかい布で内側から外側に向かって放射状に軽くふき取ってください。
レコードクリーナーや溶剤などは使用しないでください。
- ディスクは両面共に、鉛筆、ボールペン、油性ペン等で文字や絵をかいたり、シールなどを貼付しないでください。
- ひび割れや変形、または接着剤などで補修したディスクは、危険ですから絶対に使用しないでください。

【管理上の注意】

- 直射日光の当たるところ、高音、多湿な場所での使用・保管は避けてください。
- ご使用後、ディスクは必ずプレーヤーから取り出し、DVD専用ケースに入れて保管してください。
- プラスチックケースの上に重いものを置いたり、落としたりすると、ケースが破損し、ケガをすることがあります。

- このプログラムは、一般家庭での私的視聴に用途を限って頒布されています。したがって、無断で複製、放送、有線放送、上映、レンタル(有償・無償を問わず)することは法律によって一切禁止されています。

DLVC-1163	81min	DVD VIDEO	2 NTSC	4:3	1 1:日本語 字幕
カラー	片面1層				
リニアPCM	モノラル				
MPEG-2	レンタル禁止				

発売・販売

ニホンモニター株式会社 ドリームライフ事業部

©NIHONMONITOR CO.,LTD DREAMLIFE. ENTERPRISE